

風見

第4号

10周年記念

四三二一
忍時規和
耐間嚴律
守

合宿所より

目次

はじめに

幹部の言葉

活動報告

部員紹介

合宿日誌より

O B の作品

四年生の作品 (苦しめた事)

詩一編・合宿アラカルト

今年のハイライト

三年生の作品 (楽しかった事)

二年生の作品 (血と涙と汗と)

一年自己ピリール

一年生の作品

470 とスナイク (田畑博幸)

O B の現住所

四年生への言葉

(一・二・三年より)

編集後記

アメリカの海岸避暑地

部長 大竹 勝

ある見物の嫌いなわたしでは
アメリカの三大避暑地を訪
れて、いる。四月十一日から
一週間、春の休暇を利用して
インディアンナ大学からマ
イヤーミズイフ子の別荘を訪
た。まだ春さきだというの
に、マイアミは、常夏の国で
あった。

型の千鳥か、大西洋の渚で
波間をぬって、えさを
いばんでいた。
学生はあつても、外から来
て滞在する者は少ないので、
住んでいても物価が高いので、
たちばかりでは、水泳を楽しま
し、ここへ来た。キ！ウエストに
と、か出来た。グ！エイの博
行、つて、ヘミ、グ！ウエイの博
物館を訪ね、彼の友人トム
ス、老人に会うことも出来
て、ヘミ、グ！ウエイが行
きた。

ド、海岸を歩いて、隣の小さな

同じ年の六月八日ハイヴアド
大学のケンブリッジか
ら自動車でエール大学のある
ニュー・ヘイヴンを訪ねた。
同大学のピアスン教授の招
待で二日滞在し、大学を参
観させしてもらった。大学で
物価のことも聞いた。ポテル
の宿のほと高くと、球
るかされたが、未だシズ
ニオフといふこと、おそれ
程でもなかつた。おかげで
有名なヴァイキングホテル
に投宿し、バスで半島を一
巡した。外海は大西岸で、
まるで別荘のコンクリールの

ようなものだ。建築途中で
放棄したような跡があるの
は、破産した富豪の名残り
だ。そうで人間の浮き沈みを
考えさせられた。ヘンリ！
ジエームズの家を発見出来
なかつたのが心残りである。
では、その都度ハワイのワ
イキキに立寄った。三朝の水
泳は楽しかった。三朝の水
日活の保田君が、ハワイ
日活のマネージャーを
ていたため、楽しい幾日か
を共にした。樹に咲く花
も見に来る。と、つて妻が
ハワイまで出迎えたのも、

その年の事であった。

監督一年生

監督 舟山 広志

然、前年の「風見」には、突
然、前監督の羽草氏より監督
推せんがあり、私自身戸
惑ったりしました。私が、私の
抱負として、一〇・Bとして
の役割りみたいな事を書い
たつもりであつたが、この
一年向を振りかへてみる
と、いろいろな事が起つた
りしたが、へその色々な事を
この誌上に書くと長くなり

ますので省略させていただ
きます。まだまた自分の努
力がおよばなかつた様に思
いました。ただこれだけは
言えます。私いや前監督が
絶えず思つていた事でしょ
うが、会社に「これから合宿
に入ります」と主将から電
話が入る度に天候にはくれ
ぐれも注意しろと言つたり
するのが口ぐせになりました
たが、これからも、この事
は言うつもりです。
さて、今年で創立十週年
でもありますので、自分自
身の現役の時に戻つて考え
てみますと、現役の時には

満足に乗れる艇は、スナイ
プーパイしかなく、残った
部員は陸トレ、又はコーキ
ンがなどをしていた時代で
ありましたが、全部員一致
団結して、東京経済大学ヨ
ット部を大きく発展させる
つもりで頑張りました。が、
将来、つまり後輩諸君達が
もつと大きく発展させてく
れるだろうと思つて、ちい
さいながらも基礎みたいな
ものを築く熱に部員全員協
カレ合いました。その結果
、十年後にして今日の東京
経済大学ヨット部というま
だ完全ごはないか、そ水に近

いクラブが出来た事は、う
れしくもあり、たのもしく
もあると私、いや先輩同輩
それぞれに近い後輩もきつとそ
う思つているのに、ちがひあ
りません。これから後、20年、又30
周年という記念事業が出来
る様に、OB及び現役が団結
協力援助しあつて、こうで
はありませんか。

第九期主将

小日向高志

幹部交替を去年の夏に
してからこの秋のインカレ
が終るまでの一年間余ク
ラブを運営してここで無事
任期が終り、振替って見る
と、いろんな事がありました
。スタートし、スタートラ
インでトラブルを起こし
あわやと思ったり上マーク
サイド廻航するまでは
監督、コイチ、OBの方々
も、はらはらしっぱなしだ
ったと思います、そのつ

ど御指導を受けましてどう
もありがとうございました
。そして、どうにか下マー
ク、上フックとセーリング
し、最後のうは、落ちつい
てセーリングを行ない、フイ
ニシユすることができました
。最後に、事故らしい事故
もなく無事に終れたこと感
謝しております。

新幹部の言葉

第十期主将

山崎研一

任期改選と共に、今後一
年間の活動方針を練らねば
ならない立場になり改め
てその難しさを痛感してい
る次第であります。対自然
、対人、対学業とそれらが
与える課題は種々のもので
あります。その工学業を離
れ、合宿をつまなれば活動
ができませんと言わなければ
持たざるの支障は非常に大
きなものであると思ひます。

これらの事項には諸先輩方
々々大いに苦勞したのでは
ないかと恐縮して居ります
。さて、我東京経済大学ヨ
ツト部は、今秋季インカレ
に於いて、スタイプ級の決
勝進出という輝しい成績を
修めたのであります。この
事は、とりとえなからず諸先
輩方々、物質的にも技術的
にも他大学に負ける事にな
いと立証してくいたもので
あり、現役にとつて大きな支
之になる事と思ひます。そ
して、采登からの練習では、
体力増強と基礎セーリング

に一層の磨きをかけ、次期
秋期インカレには是非とも
S級・470級伴に決勝進出を
果たすことのできる様に努
めさせていただきます。

これからは不幸にして生じ
た神大の惨事を戒めとして
自然相手のスポーツである
事の重大さを改めて肝に命
じ安全対策に万全を配して
ゆかなければなりません。
以上誓約文の様になります。
だが、この辺で私のクラグ
に対する主針を述べ、事に
対する不思議な事に頼律に
誠意"責任"忍耐"と

呼ばれるものが頭に浮かびま
す。社会へ飛び出す最終ス
トップでもある。大学時代
で誰よりも恵まれた、集団
生活、集団行動の場を得て
るわけであり増してそれが
体育会である。だから私を
はじめ現役部員一同が、二
れを機会に規律・誠意・責
任・忍耐・をし、かり身に
つけ、ヨット部を卒業して欲
しい。そして「四年間ヨツ
ト部に在籍していてほん
に良かった」と懐古できる
ように自分を練る様にと望
んでいます。

我々三斗全員は以上の方針の下で団結して運営してゆきます。尚それについては様々な問題につきあたる事と思ひますが、その節は監督、コーチをはじめ諸先輩方々の御指導をよろしくお願い致します。

水十期副将長 総務
杉田清二

まず最初に我々の相手は海という自然なのであります。自然を相手にしてはいるのだ。と自覚しなくては

けなれと思ふ。それについてはまず安全性に強く力を入れなくては行けないので。艦装の点検の確實性と乗艇員の健康の管理 etc. にもあります。特に東年の初合宿の頃は寒さが特にきびしいと思ひます。それなりの装備を乗艇員にさせて行かなくては行けないでしょう。今まで大きな事故(我が東又夫ヨット部に因して)もなくやつて来たのです。今年の4月に不幸にして起つた神奈川大生の遭難事件を新たな教訓としてさうに深く我々も

考えていかなくてはいけな
いと思つてゐる次第であり
ます。またこの事に關して
は、私たち上級生も同様、
下級生も深く自覺していな
ければならぬと思ひます。
あとは部員も少ないことで
すので来年の一年生勧誘を
しつかりやつて全員が一同
となつて合宿に取り組み、
そしてレースに望んで行き
たいと思ひます。次に総務
に關してですが、私の上級
生になつて初めて知つたこ
ろなのですが非常にお金が
かかるという事です。

この席を借りまして大変口
舌の方々には失礼なんです
けれども、これから以後大
変御世話になると思ひます
のでその節はよろしくお願
ひします。
最後に下級生に一言。こ
れは受け売りになるかもし
ぬ存りが、ヨットをやつて
いるという事にもつと誇
りをもつてやつてほしい。
ヨットというスポーツは足
水に晒すものど確心する。
必ずしも自滿をしろという
のではない。気持ちの上
に於て個人(人相)を大きくす

る
ス
ポ
ー
ツ
で
あ
る
と
い
う
こ
と
に
あ
る
。

48年度活動報告

4月 2~8 新入生勧誘を行なう。
(本館前に470級を展示。)

男子3名
女子3名 入部

9~14 新入生歓迎合宿

28 関東学生^{女子}ヨット選手権で
スナイプ級黒川が2位にな
り全日本の出場権を得る。

5月

11~14 関東学生ヨット選手権春期大会
S級:3艇 470級3艇 (於葉山)

成績-Cブロック13校中 S...9位

470...6位

秋の大会での決勝進出を目指す。

6月 新艇購入の為資金集め。大成功!!

ミーティング 三回

7月 3~10 前期夏合宿 S級・470級入水戦

4年生就職戦線突入!! 470組勝利。

8月 18~19 全日本女子選手権 (於鹿兒島)
34艇出場 14位の成績

25~26 後期夏合宿

26 O・B-現役対抗戦 O・B組の勝利!

9月 18 葵祭水泳大会 6位に終る。

29 体育会コン親会 (於東経大)

この月合宿2回 (11~16, 23~26)

スナイフ・奥村の新艇-パイ購入

(20747)

10月 13 柳下さん結婚式

13~14 女子仁カレ (於葉山森戸海岸)

S級 2位

この月合宿3回 (2~6, 8~14, 23~28)

11月 1~5 関東学生ヨット選手権秋期大会

(於葉山森戸海岸)

S級: 3艇 (Cブロック)

470級 3艇 (Bブロック)

出場校全部をクラス別3ブロックに別けて

上位5校決勝進出

成績: 470級7位, S級5位,

S級念願の決勝進出!!

11月 4~5 S級決勝戦



成績: 15中 14位

12 ミーティング

役員改選 (9期~10期)

主将 山崎 研一

副将(主務) 杉田 清二

副将(学連) 田畑 博幸

12月 3~22 強制バイト

14 48年度納会

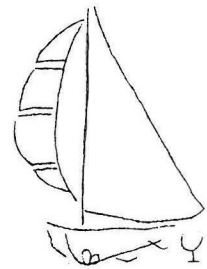
☆ 現在の艇数

- スナイプ 5艇 (19409, 19410, 1374, 10671, 20747)
- 470 3艇 (39, 235, 244)
- ティニギ 3艇 (1263, 1171, 1250)
- テンダー 1艇 (Y-15)

合計 12艇

☆ 現在の部員数

- 4年生 7名 (男1人)
- 3年生 7名
- 2年生 3名
- 1年生 7名 (女子3人)



現役部員の紹介

三年

山崎 研一 (新潟 B)

第十期 主将 470

沈処理の名手・つりの名人。顔は聖徳太子に似て
いるとか？

杉田 清二 (東京 E)

第十期 副将 主務 470

つねにダンディにせまり
髪には細心の注意をはら
い、ダニヒルを扱うという
うぬさ 成績バツグン

加藤 慶太 (秋田 B) 470

酒には強いが女に弱い。
トラピーズを使わずヒ
ルをつぶすこの根性。
クラブーのカモチ。

上総 雄二 (高知 B) スナイプ

とにかく雄弁な先輩です。
コンパでは最後まで残る
ワラブー、ニの酒豪。
ながレ目がニクイ!!
今、ひそかに女子部員の中
でうぬさの人



田畑 博幸 (能本・B) スナイプ

第十期副将・学連

作詞というかくれた才能
があり、性講座で女子部
員に好評。合宿所でのリ
ウリエーシヨン委員長

山崎 淳一 (青森・E) スナイプ

税理士になるためコッコ
ッ努力をしてくるやさし
い先輩。ギターを持つと
和製ポプテイラン。

田中 展郎 (石川・B) スナイプ

やる時にはやるよと根性
を見せる頼りがいのあるた
のもしい先輩

☆ かつちリスクリウム

三人トリオ (二年)

青木 良和 (東京・E)

クラブ一の巨漢。何ごと
にもおちつりていて二年
の中でたよれる人物。な
やみ事は彼に相談するの
が一番。

佐塚 真吾 (静岡・B)

笑顔がにくい色男。
運動神経バツグン。
人かいいのでたのみ事は
彼が一番。

北村 典聖 (札幌 E)

おだてるとすぐその気にならる一本気な男。クラブ一の根情の持ち主。多少足の短かさが気になる。

★ 若手ウルトラ

セブン象 (二年)

石川 潔 (長野 B)

小柄だがピリリとしまつて根性がある。酒を飲ぶとシッコくなるのが欠点。サンガラスをかけるとシン、ワイツの様ないり男。

神崎 洋幸 (横須賀 B)

アメラグの神崎として横須賀ではチヨットした顔。2年青木と並ぶ巨漢。大きな体で酒をグイグイ飲みます。

堀江 範彦 (静岡 E)

飲むとほろかになりクラターの芸達者。栗田ひろみのファンとか？。クラグの中に笑いをふりまく甘いマスク。

吉田 昭夫 (東京・B)

酒を飲むと泣いてグナル
悪い癖がある。花ふだと
マシヤコには目がなく
縄とびのチヤコピオン!!

飯島 洋子 (茨木・J)

飲むと腰をぬかす。西城
秀樹のフアソで彼の歌が
聞こえる。ラジオにかぶ
りつき。笑いよいうこである。

深谷 敦子 (茨城・J)

一年の中で一番の酒豪で
いくらのんでもケロリと
している。一年女子のま
とめ役。ちよちよの歌はガンバツ

横山 昌子 (静岡・J)

飲むと大声でさゆぎ
飛びはねる奇行の持
ち主。野口五郎の大
賞。フアソで日本歌謡大
落選でガツカリ!!

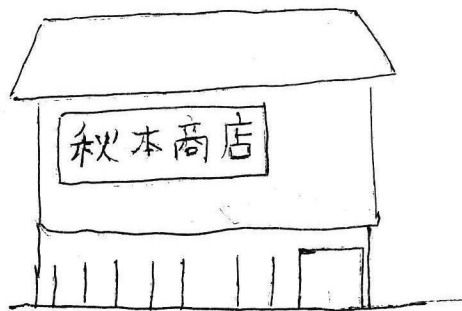
台宿日記より

8月31日 FRIDAY 晴れ 田畑博幸

午前：北 3～4 m

午後：北 4～5 m

潮がきつかった。潮にドカンな俺にも潮がハッキリ感じられた。午前中神川さんのクルーをやらしてもらったが久しぶりに『のった』感じて調子がよかった。午後は「おか」だったがこれもよい休息になった。消灯前におはきんから差し入れがあった。いつもゴツツアんです。スイカと寿しを食らい、そして寝た。合宿も後半、若手に負けず三年諸氏頑張ろう。



○・B・の 作 品

風見と私とその仲間

長谷川 康二
(48年度卒)

先日、青木君より寄稿の依頼があり、私もBとし、て風見に寄稿する様になつたかと自分の成長の早さに驚嘆の意を現わさずにはいられませんでした。しかし、これは誰しも卒業すれば、Bになるのだから大した事で、ではありません。社内にて暇な中にも忙しさを装つて

いる今日此頃、会社以外で、久方振りにデスクの前に座り、長考の末、前の風見を引っぱり出して来て読んでみま、ぱり出、早、いもので風見が発行されてから四年目にな、るわけです。これは今更に思うのです。東京経済大学ヨット部始、ま、つて以来のすばらしさを超越した企、画であると思、います。これを企画した人は私の知る由も、ない方、で、し、よ、う、が、発行した人々、は、恐、ら、く、と、ん、で

もなない人々だ。たと思いま
す。書く前は、社会に入っ
ど。うのころか、社会に入っ
部に在籍して得た事と
ごく真面目でかつカツコ
い。事を、書こうと思っ
し。たが、現存のサラリ
ン。生活でその知恵を使
レ。て、いるのが現状です
、。それ、納期的な問題
。信。い、まして、ホッ
。と。書。く。事。は。以。前。の。私。か。ら。思
。像。も。は。る。か。よ。う。が。現。在。の
。わ。れ。で。し。よ。う。が。現。在。の

我々の代の人々の行動を見
て、いると、私も変身せざる
も、余儀なくされるのです。
或る人は他国の地で、掛人
よろしく酒と女に狂い、又
、或る人は、さんざん狂い果て
、あき、て、真面目に利益を
得よう、と、努力して、いる、
男、お、い、ど、ん、か、ら、加、山、雄、三、に
変身した人も、いる、し、よ、
う、こ、り、も、な、く、女、と、金、を、追、究
し、て、い、る、人、も、ち、ら、ほ、ら、と
に、も、か、く、に、も、我、が、代、は、と、て
っ、も、な、く、ウ、イ、ツ、ト、に、富、ん、で、
い、て、全、く、の、り、す、ぎ、の、感、を、ま
め、が、水、な、い、人、々、で、あ、る、と、蒼

にうわさが流れていると聞
いています。そんな中で従
来正常な私が、今もなお正
常であり得るはずがありま
せん。そういう影響を何の
抵抗もなく受けられるごく
わずかな得がたい仲間を得
るといふ事はすばらしい事
です。

私も社会に入って齒の浮
く様な御世辞が一段とうま
くなつた様です。文章でない
私がかこういふ文章でない
文章を何の恥じらいもなく
書けるというのも風見のす
ばらしさの一つでもあり、
私が悪評栖さめる恐さの一

つでもあるわけですが、風
見あつてのことだと喜んで
居ります。

なあ、これでは物足りな
い方、私の真の言葉を聞い
てみたいという方は、いつ
でも御一報下されば、一献
交じえながらお話する事に
しましよ。その機があら
ん事を……。

— 格言事典 —

他人の規則や管理につい
て欠陥を滔々と言明するこ
とになれてきた人間が、ひ
とたび人の上に立つ時、か
れは行動することや話をす

ることが非常に遠々てくる
ことを見出し出す。

どういふ事になるものや
ら見当のつかないふたつの
場合がある。男が初めて酒
を飲む時、それから母が最
後の「今夜モリよ」と酒を
飲む時。

自然の法則には、例外と
いうものはひつもない。

友人とはあなたについて
すべてのことを知っていて
、それにもかかわらずあな
たを好んでいる人のことであ

ある。

永いこと考えこんでいる者
が、いつと最善のものを選
ぶわけではない。

世の中には福と禍もな
ただ考え方でどうにでもな
るのだ。

自分にうらかつことは、勝
利のうちの最下のものであ
る。

名作集

永山 俊郎

(48年度卒)

時に逢ふ 悪友達の

たのもしさこ
声高になり グラス傾け

淋しさよ 何の波乱も

起りえぬ レールの上を

走る如き 日々

弁酒を 呑む傍に

君が居る 何をか語らん
この美酒よ

幼くして 頬をぶたれし

女子の 幸多しと
信じた女よ

雨あがり 一駅乗らば

知らぬ街 はじめて組みし

かほそき腕よ

あなたを びしもやに煙りし

函館は かの夜景さえ

幼と化す

淋しきは ドラの響きよ

切なくも 鳴り響きあり

海峡渡る

いつの日か 彼女と云える
人あらば 飾らんと思ひし
写真たてかな

さりげなく シヤネルの五番
云ひし人 胸の痛みを
いかで知るらむ

寒き日に 薄紅くわいの紅さして
若きよわ齡いを 重おもぬらん

懐かしむ 学生時代は
帰り来ぬ 今この時
燃えんとぞ

初めのレースで、ヨ
ットからおっこちた一人
から 五十嵐 誠

私は一年の時(48年度卒)に初め
てレースに参加できた仲
間の一人です。これはもう
まいと、いう理由からでは
なく、人数の不足を補う補
充要員でありました。その
おかげで、というのはいま
にほると思っています。三
三年にほるまで、ほとん
どクルーでした。クルー
はつらつとしたので、
つらつたりたのびが、
つらつたりたのびが、
つらつたりたのびが、

たつもりです。今の現役は
人数の関係からなにか一
年生の頃からヨットに乗る
のは困難でしょうが、テニ
スに乘る機会はあると思
いますので、一口つけ加え
ておくと、ただヨットし
ておくと、たはよく、
先輩のヨットに向かつて言
つて、いる事を注意しなから
ヨットの練習を見て、いと
と、おもしろい、ですよ。
だ、ただ波にのられる、
あ、た、か、陽、ざ、し、を、浴、び、て
いた、ら、寝、む、く、ち、ろ、で、し、よ
う、そ、い、に、た、だ、見、て、い、た、つ
て、順、位、だ、け、し、か、わ、か、ら、な、い

と思うんですよ。実際にヨ
ットに乗って先輩からおこ
らぬながら乗っているより
も、気が楽に見ていられるで
しょう。
今度、ヨットに乗って、い
る方ですが、これが、み、た、え、
んの、手、に、渡、る、時、は、今、の、四
年生が最後の、ス、を、終、つ
て、い、る、時、だ、と、思、つ、て、書、き、ま、
すが、へ、い、う、も、ご、く、ろ、う、さ、ま
で、し、た、し、ス、な、ん、か、は、時
の、運、と、い、わ、れ、ま、す。そ、の、時
の、運、を、ほ、ん、の、わ、ず、か、ど、も、作
ら、う、と、す、る、の、が、練、習、の、よ、う
な、気、が、す、る、の、で、す。ほ、し、ス
に、出、て、し、ま、う、と、ほ、と、ん、ど

回りの注意力がチンプンカ
ンプンになつてゐると思つ
たのです。へ当然さういふ人ば
かりだと私は言つておりました
せん。違つて人は気を悪くし
ないやうに、それを本能的
に結局行動できるか、で
きないかの訓練をやらせ
ばいいんですよ。私はどう
にかつたのですが、常に自
分の位置を確保できる前
にいればいいんです。運が
あつたら、たまたまツプ
を走つてしまつたと思へる
やうなものは、いいんじゃない
か。まあと思つておすべし

ツプを走つた事が無いので
あくまで私の想像力だ
から練習はつらいと思つ
たよ。それから我々の同期の中
で、オオ、たかくだら、いいと
思つたのですが、その時は合
宿所に帰つて、その時、ジャン
ケンの読み較べたんかもし
たもので、常に回りに気
を使つて相手がどのやうに
行動するだらうかと、相手に
の動きを自分で想像するの
です。当たると本當におも
しろいものです。
でもまあ早く今の三斗生

はヨットを上手に動かせる
ようにな、二年生は大変でし
ようけれど、辛いクルーを、
一年生は今の一年生が合宿
所でどんなにいい生活をして
いるのか、私にはちよと想
像がつかないの、でここには
書かない事にしておきます。
みとれで少しは現役のはげ
みとなっただかな？

我ら丸井クレジットマン

丸井クレジット千葉店

工藤 純一

(77年度卒)

ついでに、現在昨年同様集金業務に
ついては、昨年同様集金業務に
ついては、昨年同様集金業務に
ついては、昨年同様集金業務に

店でオニボロバイクに乗っ
て、ヨット部員同様、雨にも
負けず、風にも負けず、集
金の数字を並べている。
りに、楽しかった。昨年、
驚かされた。ね、み取り
で、罰金を取られたり、
んな腹が立つ事が多かっ
が、そんな時は葉山の「色海
岸」でよく昼寝をしたものだ
った。天気の良い日は、本
に、気持ちが良いものであ
た。また、一番の楽しみは、
合宿が始まって、クラブ員
顔を見る事であつた。部員

と一諸にいと仕事のも
忘れて現役時代の純粋(?)な
気持ちに戻れるのであった
。社会とは権力と虚栄の複
雑怪奇なものである。ある
日は部員とマージヤンをや
ったり、酒も飲んで次の朝
っぱいワで合宿所から会社に
通ったりしたので、この仕事で
い出である。この仕事で得
たものは大だ。たし、ま
な人向模様を知らなかった
。た大事だと思っただことは
律も知ることであると思っ
た。法律を知ってあればこ
れをたてに強く請求できる
が法律にはすべて裏がある

という。やり方次第では月
賦もあるのである。日本の企
業はこの法律の抜け穴をく
ぐって繁栄してきたのである
。授業にもっと学生時代法律の
良かっただと思っでいる今日
この頃である。
相心
い
出
吉田 義夫
(41年度卒)
でとりとめのない話で恐縮
御借りしたい。少し時間を

先日、ある結婚披露宴に出
席した。私が公私共に長く
交際させてもらっている友
の結婚式である。宴もたけ
なぬになり、私も一言、ス
ピーチをやらされ、歌をう
たった。楽しい披露宴であ
ったが、何故か私を感傷的
にした。なぜなら、彼はす
でに両親を亡くし、いちけ
ることなく、明るく、たく
ましく、そして両のほほに
笑くぼの出る可愛い伴侶を
もらったのだ。と同時に数
多くいる友人達の中では遅
い方に入る結婚であり、人

生の門出を祝うこの様式
は何度出席しても、笑いな
り、涙あり、楽しいもので
残り少なくなつた。淋しさ
も手伝つたのである。披露
宴が終つて、二次会、三次
会と気の合つた仲間と宴を
延長させて、新郎を、こきお
ろした。飲むほどに酔う
ほどに、メートルも上がりい
つしか自分の飲める量も度
をこし、大騒ぎをし、いる
うちに、時間のたつのも忘
れ、酔っぱらつてしまつた。
翌朝の事、頭はガンガン
胃はむかつき、足はふらつ

き完全なる二日酔い。自分が
どうやって帰宅したか全然
憶えられない。会社に出社
する意志あつた。体が云う
事をきいてくれない。やむ
なく欠勤とあつた。あ
あ、金輪際、酒はやめよう
と思つた。イントロが長か
つたが、ふと想ひ出したの
である。我々の行なつた
の合宿を葉山で行なつた
きの最後の晩。無事に合宿
も終り成果も上がり、これ
から多いにヨツト同好会を
力合わせて育てていこうと
誓ひあひ、一杯を吸み合ひ

せたのである。この一杯に
端を發し、どんちゃん騒ぎ
後輩のパンツを脱がせての
洗礼式、裸踊り、一人一人
の余興、そのころありとあ
らゆる芸が出つくすまでの
この騒ぎが続いたのである。
飲んだ酒は最安価の合成酒
私にとつて飲んだ酒も悪か
つたが同期の桜も悪かつた。
飲めないこの私に酒をやる
で水のように飲ませたので
ある。翌日はお決まりの
だらしなさ。真検に思つた
ものである。しかし今日、
思えばこの一日を境にして

酒が好きになり 飲めるよ
うになつたのであるから、
おもしろい。十年も前にな
るか こんな他愛もない工
ピソードを想い出したので
連々、書いてみた。
最後に 後輩 諸君達の
今後の活躍を祈つてペンを
置く。

回想

橋本 登談
(四十一年度卒)

本当に月日の立つものは早
いもので同好会としてスタ
ートしたものがウラブとな
り、そして決勝に進出する
ほどの実カをつける事にな
つた事は喜ばしい。当事二
年だつた俺達は、最初早稲
田の合宿に参加してヨツト
に乗り、資金集めの為に函
書館で葵友会の名簿を見つ
け卒業生の方々に何度も足
さはこび、カンパをいただ
いたり、ダンスパーテイー
(税務署の人にいくらかつか
ませて消防法で定められ

いる定員以上のチケットを
発売した。を開いたりした
ものだ。そして始めて、
自分達の艇を買った時は
まるで宝物の様になぞま
わした。あれから十年サ
ラリーマンとして働いてい
る俺にヨットにギヤン
ブルに酒に女に。もし
て勉強と勝負。てきまきに過
ごした。学生時代が懐しく
思い出される。

(青木記)

ヨット部に思う

鈴木 正章

東経大ヨット部設立今年
で10年との事。その吉報を
聞いた時私は思わず自分の
顔を撫で鏡を見た。
我が卒業してからまだ一
く二年いやそれ以上にまだ
学生の様な気持ちでいた私
にとつてヨット部設立10周
年記念などと言う言葉が改
めて自分の顔を鏡に走らせ
たのかと信じない。
確かに現実には仲間皆が結
婚し子供を持つている。

そして年今の左側の数字も
新らしい「ぶ」と言う数字に変
つてゐる。
早い様な気もするが、又当
然の事の様な気もする。
ヨット部で知り合つた友達
は、その後と強い結束と信
頼と友情に依つて現在も、
そして今後とも変らず付き合
つていける事を確信してゐ
る。10年前ヨット部設立の
為に集つた仲間は今、30人以
上いたと思ふ。しかし資金
難の為皆アルバイトをし
たり先輩の所へ寄附金をお
願ひに歩むいたりして、

ダンスバーデーを開いて
も切符が売れず困つた事も
あつた。しかしやつとヨツ
トを買い海に出た時その仲
間達も半分以下に減りし
て卒業の時には、僅か羽草
日笠・間利子・吉田・橋本
そして私だけであつたと思
ふ。その仲間とも在学中は
良くもめた事もある。現在
の政府ではないが主流派、
反主流派などと言つて……
しかし又良く酒も飲んだ。
やはり現在も同じ様に気ど
らず楽しく話し合えるのは
その時の苦勞を皆知つてい

るからであると思う。
私の青春に於て東経大ヨツ
ト部の設立という事は、忘
れられない。そして今後、
誰にでも自慢のできる事
あると確信している。
現在私は世間の荒波を乗り
越える自信は、あるが、恥
かしながらヨツトの技術は
全く忘れてしまひヨツトが
あやんと運転できるかどう
か自信がない。
（それでもヨツト部のOBで
は、ある）
今後の東経大ヨツト部に対
する希望は、技術を磨く事

も、しーヌに出る事も試合
に勝つ事も必要であるが、
より良く人間性を作り素晴
しい友達を与えてくれるク
ラブであってほしいと思う。

十年一昔

間利子垣義

(幼年度卒)

十年一昔とはよく云われ
る言葉だが、今め
まぐるしい社会で妻子をか
かえ、生活に追われ、
三十男にとつて、五年い
二年位が一昔に感じられ、
「ヨシトクラブを学校の
教室で旗揚げしたのが十年
も前なんぞ、本当に一昔も
二昔も遠い遠い事のように
想われます。それも若さの
砦であった二十代を終つて
しまふと、広い海で自然の
力を借りて走つてみたいと

いう素朴な気持ちから始ま
ったヨシトクラブが十年
輪をきざんできたなんぞ、
うれしい事だす。飛魚と一
緒に走った岩井の合宿、継
ぎはぎざらけのセールのヨ
ットが何か場違いの感じが
した葉山の合宿。朝早く漁
船にひかれ葉山から城ヶ島
大橋をくぐり、岩井へ廻航
した事など、色々想
出されますが何としまも試
合らしい試合をした想
い出がなく、後輩からの便りの
イニカレへの出場などは、
うらやましく思えてなりま
せん。

社会に出るから、この競った事や勝ち負けをした事は、大いに役立つものに違いありません。ここに水と訓とありませぬ。ここに水と訓と、
一、あらゆる生物に生命力を与えるは水なり。
一、常に自己の進路をおめりやまざるは水なり。
一、如何なる障害をも克服する勇猛心とよく不同の器に従う和合性とを兼ね備えるは水なり。
一、自から清く他の汚を洗い清濁併せ容るの量あるは水なり。
一、動力となり光となり、生

産と生活に無限の奉仕を行ない、何等報いをおめざるは水なり。
一、大洋を流し、発しは蒸気となり雲となり雨となり、雪と変じ霞と化しても元の性を失ふざるは水なり。

このように水を心としながら後輩達は自からをきたえ、団体生活の秩序を守り、大ききく成長し、欲しいと思ひます。又、年輪をさがみ、先輩二十年たちました。何か書いて下さいと云つて来るのを楽しみに。との時は四十ですぬ。

四年生の作品

テーマ「苦しい思い出」

苦悩―

苦しみと悲しみと後悔―

黒川由利子

それは一瞬にして

襲いかかり

一瞬にして

私は崩れ去った。

友を失なつてしまつた。

友ではなかつたのかもし

れない。

同時に唯一の理解者と

信頼という言葉葉を

失なつた。

ひとつの愛を得るために？

いや……

愛など得られようかない。

そんなこと友情に比したら

肉題にならぬいほど

あつぽけなものだつた。

愛などどうなつても

よかつた。

身勝手な、高慢ちき私の

たつたひとり友だつた。

いや友ではなかつた。
のかもしれなかつた。
しかし友がいなければ、
今の私はなかつた。
生きるにはいらなかつた。
充実、安堵、満足。か。
これらの言葉が
わからなかつた。
どんな時にも私を見守り、
はげまし、
やさえとなつていた。
時々注意も、批判も
しつこくくれた。
あらゆる恩恵を
受けたのに
感謝の意すら

表しなかつた。
突然の鋭い肉光と、
考えられぬ冷たい響きを
もつた。
ただ一言
“裏切り者”と。
こんな時に聞こうとは思
わなかつた。
弁解と気のきいた言葉と
なかつた。
何かが目の前で
音をたてて崩れていった。
友よ
今一度振りむいてくれる

なら……
どんな罪でも受けましよう
そしてこの私を
許して下さい。
どうかこの私を
許して下さい。

（ 苦しかった思い出 ）
ヨット部生活 木村 正彰
しかなかった事と言えは、いろいろ
いろ浮んでくる。例えは、
きついで。陸上。長井までの
マラソン。戸塚でのバイト
沈む。数え上げればきりが

ないが、二年前松島で体験
したことは今なお忘れる事
ができない。それは丁度、
富田さんがキャプテンの時
代で私が二年の時の夏休み
の事である。我々二年全員
と上級生とで東北学院との
遠征試合に行つた。八月某
日一時仙台駅集合一同加集
まつた。仙台線て一路松島
へ松島駅には、わがわが
のBの天野さんが迎へに来
てくださった。我々は、天
野さんの家で休ませていた
見物して、そこを基点に市内

ん所有のクルーザーに乗せ
ていた。だいたりに乗せ
に楽しんだ。大いに
そして、暮れかかる頃、
四台の車で東北学院の合宿
所へと向ったのである。
山あり火にありて、一時間
ほどさかかった。あろうか
やがて眼下には漁村らし
街並が広がり潮の音が
一瞬私の身を引き締めるの
を感じた。
私達は出迎へに来た。
た学院の部員に案内され、
路地を二・三本通つて、東
北学院ヨット部合宿所と書

かれたキャンパスが掛かっ
ている。かなり古い建物の前
に出た。
我々は門をくぐり庭を
横切つて中に入つて、
た。台所ではちよつと晩の
オカズをサシマを焼いてい
るらしく、ひどくけむたか
ら、中は平家で広く、右か
ら台所の板の間、八畳間、
一番奥の部屋は、最上級生
の部屋らしい。六畳間があり
そこは、フスマで仕切つてあ
つた。晩メシまでの間、上
級生は上級生同志で、我々
は、学院の二年生と軽くあ

いさつ等を交わしていた。二年生は五人いた。全員がボウズ頭で、長い間合宿をやつていたらしく、真黒の顔をしてみただけギョロギョロしていた。その日は、晩メシが終つたあと、軽くビールなどを飲んで互いの親交を深めた。次の日は、五時に起きたというより起こされた。艀をすゐるためである。これが我々とは全く勝手が違つていた。我々は、艇庫まで連れ戻すか、それか、私達の様子は、骨組だけじゃなく、屋根

付きの左舷材のものである。中には、黒塗りのデザインギンギンと光る。この艇庫は、海辺まで遠いのが最大の欠点であると思われた。なんと二・三百メートルはあるのではない。か、船を運ぶのがなんと重い。一番大変だった。あの重たい木の船を六人で担いでゆくのであるから、特にバウとかスタインに当たつた時は、肩の骨が砕け散るんじゃないかと思うくらい重かった。ただでさえ、

そう思つているところへ、
しおいには走り始めたの
には、なおさらまいった。
そして空転がまた大変であ
つた。下はコンクリートで
ちよつと誤つたらたちまち
傷がついてしまふのである
からして、一回く、本当に
慎重にやつたものである。
数回死ぬような思いをして、
船を十数回並べ終り、そ
れからマスケット等を立て始め
るのである。そこでまた驚
かされたことが一つある。
学院のスパイクのセンター
は皆鉄のセンターなのであ

る。重さといえ、やつと
一人で持つ程度であつた。
以上の事に一時間半くらい
もかかつたし、もうのである。
おろん陸トレしである。
そして一日三レースもや
り、上がつて来たら、艦
解除をして、晩メシと思つ
たら、大まちがいてある。艦
解除が終つたら、走つて艦
庫の前で持つていつて空
転しておくのである。全部
並べ終わつたところ、シ
ヤボンで一パイくまにい
に洗つておた朝と同じよう
に艇庫にしまふのである。

そのころにはもう、あたり
 か薄暗くたりか、けたり
 合宿所に戻り、一時間程の
 ミーティング。あとほグツ
 夕リしてセシベイ薄団へも
 ぐり込むだけである。この
 時程、朝が来るのがいやだ
 つたことはいが、夢を見
 る間も、朝は来さしもう
 のである。これがあと二日
 の連続した。もう体力の限界
 はとつくに通り越し精神力
 だけで頑張っていた。帰り
 の電車で皆話す元気もな
 く、東京駅まで眠りかけて
 た。これが私の苦しかった

思い出だが、四年間ふり返
 つてみると、この時の事が
 一番鮮明に思い出されるの
 である。

詩

忘却

木村 順一

淋しい夜の砂浜
 たった一人残されたように
 じつとしている
 歩こうと志れるために
 全くとこの砂浜の中に
 この空の上を拾うように
 全くとこの闇の中に

この海の底に沈めよう
深く深くもつと深く

沈めよう
つらいけれど

それが俺のためだから
それが全これを忘れるための

たつた一つの方法だから
忘れよう

もうすぐ新しい朝が

すばらしい未来が
静かに朝日が昇る

頬をつたう風が
夏の終りを告げそゆく

ふと見上げる空にも
もこもこした白い雲は
照りつける陽とうらははら
絹雲が告げそくれる
この季節の深まりを

自然が静かに
だが確実に告げそゆく
この季節のおとすれを

静かにタクトが振られる
チチチリンリンリン

自然の旋律は
リン

心の奥深く入り込み
なつかしく
わが胸にしみわたる

— 海に生きる

男の詩

神川一正

遠い霧笛がささやく
ように

ように

俺を呼んでる
海のおいに

切なく燃えて

星の流れにすべを

賭けた

俺の心をだれが知る……

つれづれぐさ

小日向高志

つれづれなるまきに、
 人合宿所にふて寝して
 と俺のオスの故郷荒崎にお
 いての出ぎ事が、頭の中に
 羊の一匹羊が二匹羊が三
 羊で来る。ロリンレン
 ジヤームレヨット海。酒。
 風。グロ。白波。おぼさ
 ん。秀。範。デングー。ス
 ナイプ。47。ホニド。水泳
 大会。沈。でるぞ。あ
 かり。山船外機。と。カ
 死。む。た。ま。の。野。郎。レ。イ。ン。タ

ヨットのあのスイとスベリ、
コす・なんとといえない気
持ち・夏合宿の風に会った
時の太陽さんのにくらしさ
之・3月の合宿寒さ・そう
そう・二年の冬合宿はよくテ
ニダに乗りたものであ
られはつジとがまんの子
ではなくばならない。
はな水じゆるじゆる。待に
にならないわけがない。
でと海はいい。でっかく
海は父であり母でありがキ
大将であり、そして彼女で
ある。海は俺を受け入れて
くゆる。またせんせい受け

入れてくれない時がある。
海は自然は征服できない。
ではなに。あくまで後身で
とどに生きてもいなくなつは
とならない。みならずもつ
とどと潮気を持ちますよ
うレ。スタート5分前。3
分前。一分前。上のすいて
いる所から出る。タツク
一発。ニコで長いスタポード
を引こう。田畑びっちりお
ニせレ……一九四一の
ファイニッシュ。レ。スにおり
ては精神的なもの。半分ぐ
ら抜いてはならない。その

4ヨットの気のゆるみがか、
 たらまち戦は不利をまねく
 妥協は絶対にいけな
 最後まで「みなさん。テク
 ニックも根性も意地もきた
 えよう。荒崎のシーサイド
 コースを級女と二人で歩く
 くいいだろうなあ。」「
 2月ヨットを洗う時のつら
 さ。水をかぶる。あの先輩
 はず、わざとぬらのをつけ
 ぶ。かけまいるのかとうた
 がいたくなる。
 夜の合宿所はカジノと変わ
 る。マージャン・トラニプ
 と上で。下での開帳である

二水なら、おぼえないのが
 また不思議である。親が見
 たら、さそなげくこと下
 ありう。

荒崎の 沖に浮かぶ
 白き帆に

たくする夢は、
 意地か！
 涙か！

青春か



たばこ一吸
 おやすみし

苦るんかった事に
ついて
広田 順

「トレニング」
肉体的。
精神的。自虐的。
動物の。
疲労・苦痛。

「コントラスト」
個人的。
論理的。非論理的。
全体的。

・民主的・封建的・縦横的

上下左右。現実的。夢想的

おとな。こども。物質的

「精神的」
「ヒコマンリレイション」

誤解。理解できない事。自己表現。時間厳守。自分の物。他人の物。全体の物。

自主制・考えてものを言う

「マイセル」
確実的。合理的。近視的。物質的。経済的。効用追求的。自己中心的。自己本位的。独善的。小市民的。

「アフェクション」
無關心

つめたさ。超論理的。人間の

的

無題

阿部謙一

人ハ海ノムコウニ
何カヲ求メテ海ニ

ヤツテクル

嗚呼!

何モノノ哀傷ゾ!

カカル大陸ニハ

幻想ノ世界シカナイ

人ハ何カヲ求メテ

海ニクル。

詩一編

三斗田畑博幸

次丁花の香が快く

春一番がもうすぐ

という時

小船の季ハルノ節ノ即ハ女メまマ

紅々とした中にも

と寂しさつに黒い山の

端に沈む夕陽がある時

小船の季が即ち終る

その目のオモヤも自然

に対する小船の挑戦

若い力を託した

小船が桃む

若者よ

おまえの力は果て

した、かもしよ、よ！

しかし私の力はしつと

果てしな、のだ

若者よ、私を思いつつ

戯しよ

しかし私がかいりの中にある

時は私の中に入るた

若者よ、私の羨しさ

あさを

しっかりと見つめるのだ

そして羽ばたけ

おまえの未来へと

合宿アウカトル

3月合宿

- 470級新艇235, 244登場!!
真白なセール, 黄色のスピニ, 青いボテジが
荒崎の海にはえる。
- ヨーンさん(スウェーデン人)合宿に参加 一同
英会話に四苦八苦。ヨーン氏も
かぜをひいたり、リースライスも
食わされたりでいささかまっ青。

4月合宿

女子部員入部にりうブ内活気づく。

6月強制バイト

滞納金5万以上の木村順一氏, 雅
彰氏, 田畑氏, 上総氏はつりに土方
の夕コ部屋入り。

7月夏合宿

恒例の夏季合宿芸能大会は、みん
なの研究不足が目立ち不評をか
った。水泳大会・ボート大会行な
われる。神川氏あやうくぼれ死
ぬところであった。
余

8月合宿

・マラソンの大会では2年佐塚君がスタートからとばし、逃げまくりおもしろい展開になった。

結果:一位田中氏、二位加藤氏、三位佐塚氏

・西瓜わり大会では、変なおっさんがあらわれ、一同アゼこ!!

9月

体育会懇親会において、2年青木君がビール早飲み大会で見事一等日本酒一升を獲得!!

11月

強風の為、全日本へかす舟を荒崎から葉山へ陸送。帰りの荷台から見た空の星、き水いだったなあ。

☆

☆

☆

☆

☆

☆

今年のハイライト

黒川さん全日本出場

「全日本奮闘記」

四年黒川由利子

全日本は考えていたほど
甘いものではなかつた。練
習を重ねて、勝つことの
考えている人達の集まりで
あつた。『どうにかなるた
ろう。』と私は思つていたが
『どうにかせぬばならない
。』とまり『勝たぬばならない
。』と『どういふ見込みの競
合いであつた。

まず痛感したのは、皆のス
タートのうまさであつた。
関東大会のようによい位置
に割り込む余地がない。ス
タート信号後すぐ二艇身
の差をつけられ、さらに五
艇身、十艇身と離れていつ
た。才一日目は陸上9mの
風で、中止になるだろうと
若干悲しかつたが、予定通
り行なわれた。場をふんで
ないせいから、雰囲気は負
たのか、まるで自分がヨツ
トに乗つていような気が
しない。冗談だろう、冗談
だろうと思つていようちに

フイニツシユであつた。三
しース目になる。とやうと
私に頭と体がくつついた。
馬力をかけたが、出遅れで
あつた。二日月は、前日と
変り朝からトベタであつた。
風速が〇mである。スター
ト後、潮だけで動いてゐる。
オーマークに全艇バウは向
いてゐるが、おしとだつた
りスタボ―だつたり、クロ
―ズであつたり、フリ―であ
つたりする。一時向後、ス
タートラインよりほるかに
流されサイドマークから下
マ―クに接近していつた。

私の艇はブローに乗つて、
環ようニ十艇を後にすべリ
出した。しかしどんなに走
つてもやつとスタートライ
ンへもどる程度、土のマー
クへ向かう途中、タイム・
リミットになつてしまつた。
T・Lは三十三艇であつた。
真夏の超微風の中、前
日の成績を返上できなかつ
た事は残念であつた。しか
し葉山とは全く比べものに
ならないほど、美しい海で
ヨツトに乗つた事は、最高
であつた。
私は運よく鹿見島へ行けた

が、こ水から後継者の人達
がいろいな経験をし、勉
強していく事を望みます。
また全日本に際し、諸先
輩方に、大変御協力をいた
だきました、ありがとうございます。
でございます。

ハイライト二段〇

久しぶりに女子入部!!

私たちが思うこと

一年女子

ヨットには力は必要です

でも女の子は最大限の力を

使ってもついて行けません

せめて男の人たちの出来

ないことは進んで引き受け

ようと思えます、そんなと

き、ライジャケとかセール

の修理をドッサリ出される

と、うれしくもあり悲しく

もあり.....

黒川さんは、一人で四年間

続けられました。私達は、
三人で二年間です。実力の
差はどうしようもありません。
んか、女の意地にかけても
頑張らねばならないと思っ
ます。そしていつかは、私
達がいよいよ来た。諸先輩
方から思われたのです。

ハイライト 三段

念願の決勝進出！

スナイプクラス

決勝進出雑感

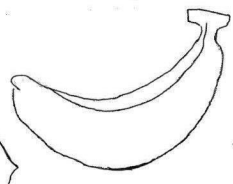
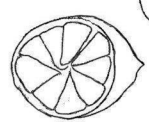
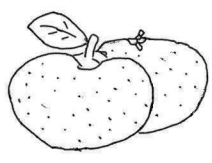
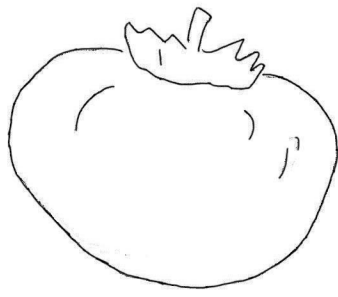
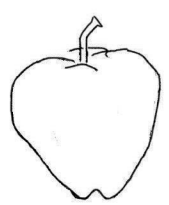
代表四年 阿部謙一

人間とは非常に臆病なも
のだと痛感したのは予
選最終日の上位五校発表前
であつた。点数的には我
々は最終シースリー五
でオとめなら心配はい
らねはずであつた。報が入
り危険な場所からあつた
トシないはずであつた。か

確信はもてなかつた。
歓喜の声があがった時、
くすぐったいような境であ
つた。翌日、翌々日と決勝
が行なわれたが、一部校と
よんでいた学校はさすがに
統制がとれていたように思
う。二日間とも微風であつ
たが、強いであらうと思わ
れる。伝統校は常にか
たまつていていつでも一緒
に動けるような形でシバ
しこいた。
か沖であつたため、周囲の

地形のよく見える去年まで
とは違い風のシフトが、よ
く解らず、コンパスの不備
を後悔した。
上位校がいかに艇をすべ
らせる術を知っているか、
つまりトリミングのうまい
シートを引きすぎずしめ
すぎずの、フイリクは
その場での模倣は許さな
かつた。
その他色々と感じるところ
ろはあつたが、まだまだ上
位との壁は厚かつたという
ことに落ちつくと思つた
決勝の成績は予想通りであ

つたが、予選通過の安度感
 がある程度左右して、いたの
 も否めたいと思う。創設十
 年目にして、ようやく一定
 の段階まで進出できたこと
 を、現役の諸君は肝に命じ
 て欲しい。中にはともあれ
 勝負はれもの四七〇ウラ
 スの惜敗は無念であつたが
 目標を達成でき、何らかの
 形で後輩に引尊を渡すこと
 ができたことを、我々は、
 うれしく思つてゐる。最後
 に我々を、こころで援助、
 指導して下さつた安住さん
 はじめ、O.B諸氏に紙面を



借りて深く感謝したい。
 ————
 了

三年生の作品。そらい文

テーマ『楽しい思い出』

楽しかった思い出

上総 雄二

今年の三年生のテーマは、
 今年の三年生の思い出は、
 私としてみても思い出さず
 ト部内でも思い出さず
 みたが苦しかった事ばかり
 思いたいで出して楽しかった事ばかり
 も思いで出して楽しかった事ばかり
 ないのでも子供は楽しかった事ばかり
 事を書いた頃楽しかった事

といえ、なんといっても
 遠足と修学旅行で修学旅行
 では好きだった女の子に
 さまくらをしてもらって眠
 って非常にくらしてもらって
 って覚えていらる。ほか
 とを覚える。そのほか
 庭でのリフトボイスド
 子ボイルなど、非常におも
 しろかった。又、五年位の
 時に始めた。三セコ子ほど
 か降った。雪を学校で根から
 けりて、雪を学校で根から

雪合戦をした事なども非常
には、きりと覚えている。
又、キャノンなどには金を
持っていかず、近くの畑か
ら野菜をかっぱらう川で
魚を取ったりしてすごし、
雨が降ってトコネルでねて
ると、夜おそくおヤじが枕
えを通ったこともあった。
又、夏になると前の晩にし
かけておいたハエナを見に
いって、期待に胸をふくら
ませてあげた時、大きなう
なぎがつかれていた時など
なると言えないようにれさ
がこみあげてきたものです

ハエナとは、私の田舎では
夕方エサをつけたつり糸を
うなぎの通りそうな穴の前か
うなぎの通る所を
行くものである。
中学校になると、やや色気
が出てきて、女の子と騒い
だりいろいろ悪い事を覚え
て来て、学校にバレル事を
心配しながら、グループで
いろいろやったり事しか覚え
ていない。高校となると割
に毎日忙し過ぎて、けっこ
う楽しい毎日を過ごしたと
のです。二年の半ば頃から

月にユラユラ回土曜の夜、私
 の部屋に友達が集つた。コ
 ンパもやり、人生論、恋愛
 論、など、それだけ興
 味あるもの同志で話し合つ
 たら、結好楽しかつた。又、
 クラウドでは、吹奏楽部に入
 った。いました時間、あれが
 トの終つた時間、あれが
 いうれしいようほ、ほ、と
 した。思い切り叫びたいよ
 うな。うまくできなかつた。
 曲が、何か頭の隅に残つた。
 それでもみんなに楽し
 ら、笑い合ひたい。吹奏楽をや
 ら、良かったと思ひ、これ

が終りかと思つと、何か空
 し、いような、複雑な気持ち
 を味わいました。それでも、
 その晩、Bの家に行つた。
 その日のテラプを聞きなが
 ら、酒を飲んだのも、楽し
 い思い出の一つです。

楽しかつた事

三年 加藤慶太

私 は 始 め に、 この 文 章 を
 書 く 上 で 大 変 な 事 態 に 気 が
 付 いた。これが大変なことか、私
 に 対 して 大 変 な 事 態 だ、私

水た北村君に多大な感謝と
尊敬を示した。いと思ふ。そ
れは榮しかつたことを書く
上で相当考えなくてはなら
なかつたし、多大な時間と
労力を使つても些細な榮し
みしか思ひ出せなかつたこ
とである。そのくせ苦しか
つたことを書くなら富士山
のごとく山積みされた原稿
用紙を使うのにものの数分
も掛からないのに……私
は三年向何の為にクラブ活
動をしてきたのか。

みた。流石田中君良い事を
言うね。田中君のこの言葉
で私はどれだけ安心し又ク
ラブ活動を続ける気になつ
たことか。彼の言うには、
「榮しみとね、苦しみはね
前後するものだよ。」
又こう言うのである。私は
耳を疑つたね。涙が出てく
るじやないか。「君は幸せ者
だよ、苦しかつたことが又
山あるから。それは貴重な
体験だよ、その苦しみが十
年、二十年立つた後でどの
位良い想ひ出になることや
ら、なまじか苦しみを避

けて些細な楽しみを味わつて
いる者よりどれだけ良いか
ゆかりはないよ。と云うの
である。
一、二年生諸君も苦しみ
堪えて十年、二十年後の想
い出の為に頑張ろう。

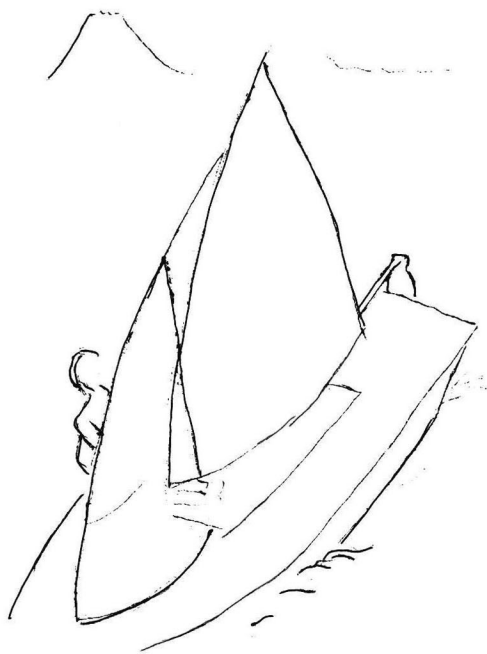
楽しかった日々

三年 杉田清二

私の場合は、楽しかった
日々というよりも、よかつた
た。うれしかつた。といふ
言葉の方に代表されるので
は、……と思ふ。私が一
年の

時は（入部した時）体育会と、
いうものへのあこがれ（これ
は中学時代に影響を受けた）
と、何か体を使つてみたか
つたといふ事である。もち
ろんヨットなるものへも、
あこがれをもつていての話
である。
一年の時は、何もわからな
かつた時代、二年になると
考えなくてはいけな時代、
三年になると、二年の時以
上に考えなくてはいけな
時代であつた。私が一
年の時に東北遠征試合に参
加した事がある。その時、東

北学院の主将の方が次のよ
 うな事を言われていたのを
 耳にしました。それは”ヨ
 ツトといたものは上に駆け
 ば行く程つまり上級生にな
 ればなるほどという事”と
 ずかしくなつていく事ので
 あると、上級生だからとい
 つて安住しては行かぬとい
 と、この言葉が、最近に
 なるにつれてその言葉がゆ
 けて来たところだ。お経
 みたいな話です。お経
 下級生も一つの話として、
 出るなれば胸にしまつて
 望む。



さて、”私”が、た日々、につい
 てで、残つて、まだ来年一年
 間が、残つて、るので、その時
 ま、で、に、どの、ように、ふ、える、か
 も、知、れ、な、い、の、で、今、日、は、以、上
 の、事、で、私、の、も、の、と、い、た、し、ま
 す。

ドキュメンタリー
「タイムトンネル」
楽しかった事

田畑博幸
思い起せばあの頃が

その時分は苦しく、
単調で

自分自身と若かった。

社会的責任もなく金もなか

った。ただヨツトにすがっ

て、単調な生活をおおいか

可事しかなない様に思えた。

合宿、合宿の連続は苦痛で

はあ、たが、肉体的などの

で、精神的な将来の不安や

若さからくる虚無感を、あ

おいかくす事が、できる様

に思えた。

合宿が終われば解放感と共

にすべてを忘れ遊ぶ事しか

なかつたのである。

ヨツト部の三年時代「風見」に

楽しかった事を書いてく「水

と依頼された。閉口した事が

あった。その時分はヨツト

部に心から楽しかった事を

書く事がなかつたのである。

あの頃の二年の青不北村、

佐塚には、悪い事をした！

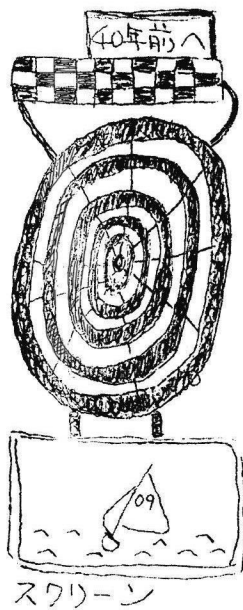
。。

。。

。。

あ、の、青、春、時、代、が、懐、し、く、楽、し

現在 2013年



(注)
 四十年代……よざじ

く思ひ出される。
 ウツバツとした死期に近づ
 きつつある人間の回春の良
 薬である。
 若さゆえの暴走と将来に對
 するひらきなりの勇氣は
 ヨツト部への情熱であつた
 今は、本当に楽しか、た事
 を書ける事だろう。

真の楽しみ

三年 田中展郎

次郎君、あなたはこの三年
 間に楽しい事が有りました
 か。僕には楽しい事がたく
 さん有りました。實際ヨツト
 に乗つてゐる時、酒を飲ん
 で騒いでゐる時、マージヤ
 ンしてゐる時、なごりいろ
 有つたようです。でもそれ
 が真に楽しか、たどもはつ
 きり言えませんが。又、全て楽
 しいはずがありません。僕
 の思ひ出すのは苦しい事ば
 かりです。でも苦しか、た

事ばかりです。でも苦しか
った事こそ、本当の祭しか
った事かもしれません。な
ぜならヨツトに乗る事身体
がえんなに甘い事では無い
です。から、じゃ次郎君はど
んな時楽しいと感じました
か。僕は強風の時ジブを引
いて我を忘れた時よく感じ
ました。又、正直言つて、合宿
を終え自分の下宿で寝ころ
がった時です。これは祭し
いというよりはやれやれと
言う感じですね。ヨツト自
体がもう僕の大学生活の大
部分を占めてゐるから、時

には、それから逃げたいと
よく思いました。でも合宿
に行つて早くヨツトに乗リ
たいとも思いませんよ。
最後に次郎君は今後どうな
ると思いますか。僕はこれ
からまだまだあると思いま
す。でも苦しい事の方がよ
けい多いと思います。そし
て苦しみの中から得られる
祭しみこそ真の祭しみだと
信じます。長い人生を取っ
てみても同じです。中国め
古い諺にも“塞翁が馬”と
いう言葉があるでしょう。
そしてこの四年間、苦しい

事、楽しい事は僕の人生に
取っても深く残る事と信じ
ています。

山崎研一

「楽しかった事は？」と言わ
れても、すぐく漠然として
いる物で、この課題に私に
とっては非常にむずかし
いのである。今こうして、ヨ
ット部に籍を置いた三年間
を省りみると、様々な事項
が頭に浮んでくるのである
……
冷たい水に腰まで一かり艇

をおさええていた頃、重い艀
艀品が肩にくい込んだ事
冷えきったマストが肩に痛
かった時とか、冷えた身体
で焚き火を囲み、そして熱
い風呂を望んだ事とか、熊
手を持った陸トレ、夏の水泳大
会、スイカ割り、あぶらつ
ぼ、廻航、春一番が吹いた時
の嬉れしさ等々、様々な事
々、それらのうち、どれが苦
しく、又、どれが楽しかっ
たかなど、と言う事は問題外
であり、それらの事項は、

私にある種の教訓めいた物を
与え、「クラブの何であるか
を教えにくれた様な気がする
か」を教えてくれた様な気が
する。そして今では過去の
思い出としてしか残っていない
ないのである——
| 実に身
勝手な人間であるかも知れ
ない。とにかく「楽しかつた
た事」とテーマが与えられ
たので、思い出の中から、
それを引き張り出してみるこ
とにする。

それは夏合宿の一日、薄
暗いうちに起きて、
「舩装する
そして平日より早い朝飯
を喰って……」
ここまで書いて

は、皆も大方、見当がつく
はず、
「言わずと知れた油壺
への廻航である。その日は
風もなく、快晴に恵まれて
いるのだ。何ひとつ知らな
かった一年の時は、陸トレ
から解放される事だけでも
楽しかつた。その上、諸先
輩方が、菓子や飲み物を買
い込んで、それらの入った
袋をかかえて乗艇して、
のを見て、ビックリ、乗艇
する時に飲み物やお菓子な
んか持って行くでもその
事が私の気持をより楽し
くしてくれました。それ

は、小学生がまるで遠足
に行く様な気持だった様な
気がする。これは一年の時
代の楽しみだったのです。
又、ある時は同輩全員で意
地けて、ふてくされている
時は、幸いながらも、皆で
不平不満を言いながらも、こ
んな事ぐらいいで負けるもん
か。とぶっかかっていった
頃、今にして思うと楽しか
った事です。

心の余裕について
二十年の我人生、山崎一
るのだが、生いきな程、まだ
まだだ、あと思はれる短い
ものである。さして苦勞し
た生活もなく、比較的恵ま
れた環境に生まれ、育ち、
今、こうして学生生活をの
うのうと送つて、いるのだか
ら、過去の苦しい事など
あつたのかとさえ思はれる。
思い出すべからぬ、甘いや
ののようだが、そんな甘いや
んの自分だが、よくあつた
た出来事も、悲しかつた。

来事も確かにあった。甘い
気持ちだからこそ、小さい
事をよくよく考え、悩む事
も多いのだろう。その出来
事が、楽しい事に今は思わ
れるのは、時を超えただけ
だいだろうか。考えただけ
と、視点が変わった、とい
うよりは、視野を広める事
が出来るようになるからだ
ろう。

以前の自分を客観的に
見た時、それはあまりにも
小さいものに変れる。もし
て、さらに本当の意味での
結果が見えこくる。つまり

以前にした事の結果が、そ
こで初めて良かった、悪
い事したなあと判断できる
ようになるのだ、
そのように、すべての行
動、言動にも、ワンクツシ
ヨンおいた上での実行、つ
まり、余裕のある態度をと
りたいものである。どうし
て、このように、当り前の
ように思える事を書いたか
という。実は、自分の田
舎である青森へ一ヶ月程、
家業の手伝いで帰って来た
のであるが、社会人と変わ
らぬ生活をしてみても、人間

同志のつきあいの中で余裕のある行動というものが、いかにかたがた痛切に感じて来たからなのだ。特に片田舎に生まれたため同じ中学校出身の中まで大学生は十人程しかいなく、中学卒業後、すぐ大工になつたという友と、いれれば、今は出かせぎをしているといふ友もいる。そんな若い割に苦勞してゐる人間と話ししてみると、今だにすねかじりの自分などには、何と言えなくなる程に、徹し、理屈なきの人生観を保持して、今まで苦しい

と思われた事など恥かしいくらい小さな物になつてしまふ。その様に物事は、視点を変えただけで、何んでもない事が、大きな影響力のあるものになつたり、又逆にもなるという事を忘れてはならないと思う。今は確かに泣きたいくらいに苦しい時であつても心に余裕を持ちさえすればおのずと結果も見え、必ずしも悲感的でない明日も見えてくるものではないだろうか？
そう、あんなに甘んじ、クツクツに

おい上での行動というものを、そろそろ知らなければならぬ年代に来たように思われる。

〈雑記〉

このごろ合宿所において、新しい遊びが、ほやつております。トポレオ、これが名前です。四、五名が一番面白く、二、三枚ある絵札を親となく、た人が指定し、それを

以上の枚数を集めれば勝利味方は、副官と呼ばれる一人だけ、残りは敵なのです。♠1が最強で表ジャック裏ジャックの順で強くなかなが頭を使うゲームで人気も天井知らずであります。合宿所でこう言うゲームが人気あるという事は、我がヨット部もなかなかできた人が集つたのではないだろうか？ ますますたのもしいくらぶに成長しております。(完)

メモをどうぞ。

二年作品

血と涙と汗と

— 激闘丁 39 —

佐塚真吾

四十一年度秋季インカシ
は十一月一日に始まった。
これは今大会における丁39
艇の第一レースの健闘模様
を同艇のクルーが書いた
ものである。おこれを書
いた時は大会から約一ヶ月
経過しており、記憶の不明
良点もところどころあり

ますが、悪しからず。

午前十時丁39は、部員達

の声援に送られ、もやのか
かつた海に、白波をけた
こ、出で行った。海上は十
メートル前後の強風が吹き
荒れていた。レース海面は
かたり、沖の方に設けられ
おり、今にも泣き出しそう
な曇り空とひどいもやの為
上マーカーはおろか、陸さえ

も見えないう状態であった。
時々寄つてくる仲間の艇が
ひどく心強く感じられる。
スタート十分前のゴウホウ
が響き渡り、艇はスタート
トラインに向かい始めた。
五分前・三分前……次第に
緊張感が高まってくる。一
分前・丁39はその時集団
の最も下の方にいた。アウ
ターのクルーザーが段々近
ずいてくる。三十秒・二十
秒・十秒すぎた。すぐジャ
イブシ、上に向った。五・四
三・二・一・スタートだ。
うまい具合に前にはかたり

水があいていた。そこでポ
ートのままスタートライン
を横切った下のほうではた
くさんの艇がゴチャゴチャ
としてとまっていた。スタ
ートはそのままのところで
つた。少し行ったところだ
でスタートボートで走る。また
ばらくしてタツクし長いホ
ートのまひいたおりの強い
風のため、トラピーズで目
つばい、頭張つてもなにか
ヒールがつぶれない。上マ
ークを見えて来た。ポートで
行き、九時ちよつと前を走
ク、パイ・ニハイと前を走

る艇が上マクを廻つて行
 く。艇トウピーズ越しに数え
 る見ると前には八パイしか
 いはい。九番目で上マク
 を回航しサイドマクを探
 すと大分上の方にある。前
 に行つた艇は全部スピンを
 バタつかせながら下の方か
 ら必死で上つて来るではな
 いか。サイドマクを回航
 した時は四番手にオで上プ
 がつきました。フリでトツ
 艇がすぐ目の前に見えた時
 には若干興奮した。艇がす
 ぐ後ろには数ハイの艇が追
 つている。落ちつけと心に追

いい間かせるが、たのし
 い。前を走つたのは始
 めでである。もう無我無
 であつた。そして下マク
 前の艇に続いた。廻航し上
 出ようとして夕ツクした時
 た。ハネスがゆるみトラ
 ビーズがはずれないのだ
 艇は強風にあおられ大きく
 傾き我は海に投げ出され
 あも我は海に投げ出され
 ます。スキップに必死の努
 より艇はひつつかつた。カ
 ピーズにひつかつた。カ
 の私は艇に引きずり戻され
 た。私の艇は引かた。艇は完

全に止まり数ハイの艇にカ
モられ^ていた。次の上マ^マ一
ク^クは十一番手位に下が^ッ
た。そして最後の^上マ^マ一^ク
を廻りゴールを目指した。
早くツイニツシユした^{いと}
思う心とは反対に最後の^上
りが非常に長く感じられる。
や^ッとゴールラインが見え
て来た。ツイニツシユして
いる艇は未だ^一パイもい^た
いよう^だ。そのうち^一パイ
ニハイとツイニツシユして
行く。そして^タツクして^フ
イニツシユラインの本^部船
に向か^ッて最後のスタ^ボ一

をひく。十番手位か、い
や、その時沖の方から^グ一
ルを^目指して^ホ一^トで^アウ
ク^クに^向か^ッて突^ツこん^で
来る艇が三^バイほどいた。
それ^らに勝てば七位だ。^た。
輩！勝つています。と私は
言^ッた。"いや負け^ているか
"と、心では思^ッていた。か
ら^も、^実に^おず^かしい所だ
つ^た。本部艇が近づいて来
る。艇^負けたか^ら、そして本
部船脇を通りすぎる。まだ
か^ら向^こうはもう^フイ^ニツ
シユしか^から^ッて^いる。その
時本部船から^ッと^ッという^声

が聞こえ続いている。すぐ向う側の艇が呼ばれた。勝った。思いわずクルーとスキップは顔を合わせた。その顔は満足感がみちあふれ長い緊張からときほころんでいた。開放感とほころんでいた。

完

涙

冬の長い日だが、中央線に座っている俺の足元をあたためる。本からふと目を離すと高架線の下に灰色

青木良和

の空気におおわれた家並がどこまでもどこまでも続いている。どうして才能あんなだけびっしり家々が並んだものだと感じるといっか。あまれるというか。これから午後の英語を受け、そして家へ帰る。まるで麻省でもしてくか。アアアア。あくびが一つ。やっ」と出た。目に涙が...

汗

一周・二周・三周
北村典聖

今、グラウンド十周……。目標百周……。ポケットにマツチ棒百本。マツチが散らばつて数本のマツチが散らばつている。暑い夏の日は誰もいない。今宿のない今。体中汗だらけ。目標に向つて。五周目ペースは遅く、ほとんどの疲れは少し前からトレニングを始めていたためペースは知っていた。つもり。二十周目三十分以上も走り続けなければならない。頭の中目標の事ばかり。始めのロングプロウを立ち、実行した。僕に

とつて大ホームランであつた。少しずつ積み重ねてきた。体には自信がなかった。ど、いや。人並にはなれないんだ。二五周だ。始めたがこれか。いや。三五周がかわい。疲れをだんだん感じる。汗は流し出ている。四十周スピードが以前よりも落ちた。疑問が出てきた。何故走るのか？あ、汗も出た。顔をふくと、かさかさ。白く。五周。一時以上も

たっつている。何も感じず機
械の様に足だけが動いてい
る。何度もやめようと思っ
た。でもここまで来たなら
あと少し走ろう
若いうちほどバカができ
るし、今しかはない！
結局目標には達する事が
できなかつたが、自分自身
満足する結果であつた。な
んとも言えない満足感を
つめたいグラウンドに寝ころ
がつた僕に感じさせてくれ
た。これからもどんどんや
りたい事をしてゆく。う
んな事を以前考へ行動し

ていたために、どこで違つて
来たのか毎日マージャンに
明けくれる生活にとどめて
しまつた。強くならない。誘
強くなりたい。座折しない人間
惑されたい。原点にもどりに
なりなりたい。原つウ
やりななそうとこの原つウ
を書きながら思つてゐる。
以前の汗のかいた時期が、
なつかしく思うのは、すで
に自分かしく思つてゐるのだ。
これから三年になりますま
す。このウグに大学生活に充
実した時間を持たなくば
ゆけないのに……

この文を書いた事を機会に
僕は、変める事を自分自身
に誓う。

♪ やると思えば

どしまで やるさく

それが男の

意気地じゃ

ないか!

僕のスキな言葉

⊗ 無だ使、厳禁

⊗ 男なら全て

挑戦あるのみ!

苦勞なくして
幸福なし!

亮己

佐塚 真吾

青木 良和

宮田 晃

一年生の作品

七人血

入部エピソード

堀江範彦

パートI
5月某日、荒崎という所にあるヨツト部の合宿所へ行った。別にヨツト部へ入ろうなんど気持ちにはなかつたが、たまたま入学して間もない頃本館で、うろうろしていたところ、可愛い一年生に声をかけた黒い顔をした男女が一組!!
今思えばあれは、阿部さん

と黒川さんであった。あの出会いが、オシの運命をきめたケキ的な出会いである。そこでオシは、のらりくらりとかわしたつもりが、結局住所を教えたのであった。それから数日のちヨツト部の説明会というもののへの招待状がきた。招待状をどうしたかについては、行かぬばならないと思いは行つた。そして、その後、先輩に喫茶店へ連れまいったら、いろいろ

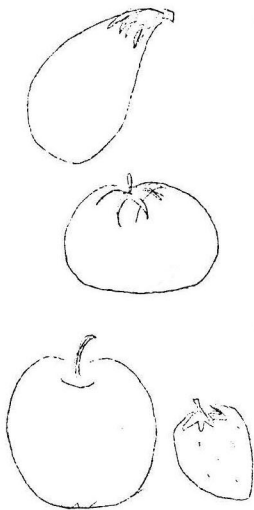
いろいろごちそうになり、ついに五回某日、体験合宿というものに参加させられることになったのである。そこでは諸先輩方は、ただただ優しく、これ信じました。ヨット部に入ることにしたのである。今考えれば、あの頃は小羊を誘う狼の気だたしであつた。でももうそれには気がついたら遅かつた。

パートⅡ 体験合宿
 東京↓逗子横須賀線
 又長井行。終点。バス停前の荒崎行。終点。

秋本商店裏。東京経済大学体育会ヨット部合宿所。なんととも辺びな所だなあ。第一印象であつた。オレがちよつと着いた時、船が出る。いぢなればならない。合宿所へうがたいと思ひ、合宿所へ行つた。食当といふ人達が食事のかたづけ、それが終つた。食事の仕たくにりかからうとしまいた。それから数時間、船が帰つて来た。たつた。オレはヨット好きであつた。

うもの高貴を感じて
マいたの裏切られた
その期待を裏切られた
事。時。人間。す。ご。い。料理。であ。食
た。人。間。と。ん。な。も。の。ど。も。食
べ。ら。れ。る。も。の。だ。は。あ。と。オ
ほ。感。じ。た。本。当。に。初。日。に
し。る。オ。シ。の。ヨ。ツ。ト。と。い。う
ス。ポ。ー。ツ。に。対。し。マ。の。考。え。
根。本。か。ら。く。つ。が。え。工。わ。た。
二。日。目。テ。ン。ダ。ー。と。い。う。船
外。機。つ。オ。シ。の。船。に。乗。せ。ま。ら
つ。た。オ。シ。の。船。に。乗。せ。ま。ら
け。じ。と。醜。い。服。装。で。乗。り。込。ん
だ。に。そ。し。ヨ。ツ。ト。に。乗。せ。ま。も
さ。ん。に。そ。し。ヨ。ツ。ト。に。乗。せ。ま。も

ら。っ。た。走。っ。た。本。当。に。風。だ
け。で。走。る。ん。だ。は。あ。と。あ。ら。た
め。マ。自。然。の。力。に。感。嘆。し。た
こ。れ。で。オ。シ。も。ヨ。ツ。ト。部。に
入。り。そ。う。だ。は。あ。と。ふ。と。感。じ
た。バ。ー。ト。Ⅲ。シ。ー。ズ。ン。を。終。え。マ
い。こ。た。は。あ。と。思。い。ふ。と。う。れ
しい。か。な。る。途。中。で。何。度。や。め
よ。う。か。な。あ。と。思。っ。た。か。解。ら
ない。い。ご。も。先。輩。方。も。一。斗。の
時。は。こ。ん。ど。も。思。い。を。し。た。こ。と
で。あ。ろ。う。と。思。い。何。と。か。こ。ら
え。た。四。年。間。こ。の。苦。し。み。も
ち。ろ。ん。苦。し。み。だ。け。で。ほ。た。い



が(を)勝ち抜いてる人前
 のヨツトマンにたり、人
 としるも成長するのど
 かるうか。オレを何と
 年間続けさせ、何か
 を見つけようと思いい現
 到つているのだありませ
 ⑤ 筆者がこの文を書いた
 時点ではもう一度合宿が
 あり正確にはシーズンオ
 ではないのです。

詩

アマテンボの私
 ノロマハ私
 気のよかハ私
 ああともい私
 みるともい私
 みるえましる
 にもささい
 笑わたいぞくたさ
 おこらたいぞくたさ
 泣きたいくらい
 一生懸命
 ヨツトが好ミなんです

一年飯島洋子

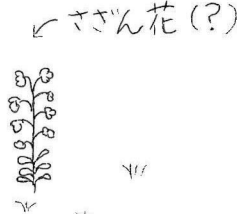
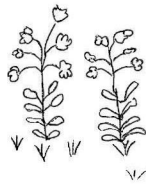
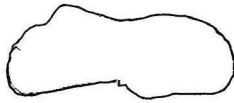
長い道

外はもう北風の吹く季節
 なの、僕がグレイのトシ
 ナー一枚で、今日も又、
 武蔵境の駅から、アパルト
 へと。暗い道を荒んだ気持
 ちを引きずりながら、前屈
 みに歩いている。又、麻雀
 で負けた、もう一月近く
 も彼女と会った、いや、今
 日からは又合宿か。色々事
 が僕の頭の中を駆け巡る
 収拾がつかない。あ、え
 うだ、友達に手紙を書か
 ければ、書き出しは、えう

どうだい元気かい。その後
 勉強は進んでいくか。女
 なんか。電話ボックスに女
 の子が誰かに電話をし、
 する。女の子、人、電話を
 する時、どうしてあんなに
 楽しそうに喋るのだろう、
 ほん？思いながら横目ぞら
 らり。
 暗い道を前屈みに、今日
 はアパルトまで、が、け、長
 い。バスに乗るのだが、た
 くと着えなから、た、頓歩
 いる。

ある朝の想い
 一時限目の授業に出るつ
 もりが早起きし、朝の外
 く庭に出る。と、朝の外
 気がひんやりと感じられ、
 思わぬ身がしまる。今日も
 また秋晴れの、遠く西
 のオに、雪化粧をした富士
 山が見える。庭のオに目を
 移すと、庭の隅のさざん花
 が散らまら、地面に花び
 らがちらかいて、夏休
 み前期合宿から、秋期イン
 カし合宿の終わるまで、
 合宿、合宿のせ山しく、落

昔田昭夫



ち着くことのはか
 一月半か過ぎた。あとも、し
 み感じに。あとも、し
 一月半か過ぎた。あとも、し
 み感じに。あとも、し

おかしな時間

横山昌子

街はとうコート、の季節に
なっている。だけど私は、
セルバルバツクをかっいで、
下宿に帰ってきた。どっか
り腰を降ろすと、どっかと疲
れが出る。何か空しくなる
一応の試験勉強をして、こ
の大学に入って、もうハカ月
も過ぎた。今振り返って、
みると私ヨツトばかりやっ
てきたような気がする。
高校時代に、大学に行つた
ら、素敵な恋人を作ろうと
思ってたのに、今だに……

なし。東京に住むんだっ
ら、見たいものを見て、や
りたことをやって、行き
たの所へ行ってと、思つて
たのに、それもやっていな
い。
なんだか、このハカ月は、
今季で私が生きてきた十九
年間で、一番妙な時間のよ
うな気がする。霧がかかっ
たような、おかしな時間。
楽しかったのかなあ？
苦しかったのかなあ？
好きなのかなあ？
嫌いなのかなあ？
なんととも言えない。

おかしな時間。だけど、き
つと、まだ、まだ、続くよ
うな気がしてる。

四畳半襖無し押し入れ

の外側

一年 神崎洋幸

四畳半襖無し押し入れの

外側などと言いますと、今

話題のホルノ映画の題名を

思い起こしてしまふのです

が、まあ、たくもって、そう

いう方面とは関係なくつけ

た題名なのであります。僕

自身、若干、いや、かなり

意識してつけた題名のよう

な気がしないでもないの
すが、……

この題名が意味するところ

の事は何かと言いますと

荒崎は東経大ヨット部合宿

所、玄関を入ってすぐの部

屋、そうなので、あの一

年坊専用の四畳半。あの四

畳半で毎晩決まってる僕

の寢床、それが四畳半襖無

し押し入れの外側なのです

。草木もまだ眠らない夜の

10時になり、僕は消燈

時間のため、あの四畳半の

襖の無い押し入れの外側に

寢床を作り出すのです。色

あせたパンダと猫の模様の
ベビー布団をしき、セー
ルバツグを枕にし、表が紫で
裏が赤の美しいコントラス
トをかもし出す掛け布団を
掛け僕は横になりますので
す。僕のスタボードサイドの
押し入れの中には堀江氏、
トサイドには石川氏が寝
ています。堀江氏は時々
夜中にタツクして僕に接触
してくるのです。また、コ
ンパのあった晩などは青木
先輩が僕のボートサイド
に「水くれ」といって入り込
んで来ます。そんな時はも

う大変です。ラフイングあ
り、ベアリングあり、サド
ニタツクあり、パニチあり
、それに時々、気合いの
こもった掛け声(正確には寝
言と言おうのです)があつて
、それこそ恐怖の一夜がお
とされます。5時の方向か
らはかすかなトイレの臭い
、^にお方向からは夕飯に食
べたカレールイスの臭い。
その両方が調和して何とも
言えない臭気をはなちます
。そのうちに吉田氏がトイレ
しに入ります。(吉田氏は寝
る前に必ずトイレに入りま

す、いっも不安そうなる顔をして、
 て来た吉田氏の手によって
 電燈が消され、私は目を
 ぶり、明朝6時の起床まで
 深いねむりにつくぬです。
 ビツジかー匹、ミミズが
 匹カエルか10匹、オケラ
 が999匹……スヤ、スヤ

ヨット部に入って学んだ

ヨット以外のこと

一年 深谷敦子

第一条

第二条

ドボンを覚えた事
 先輩達は実に良く
 おならをし、また

それを下級生の責

任にして自分のは

がれるという部則

のあること

第三条

あのような食事で

も病気もせず生き

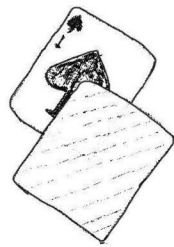
ていけるというこ

第四条

他の学校のヨット

十 九 八 七 六 五
 条 条 条 条 条 条
 と た ナ だ 最 酒 り の 女 る 名 こ ニ ガ 部
 っ こ ポ と と 高 が で の の と 島 こ っ い に には
 も こ シ い 級 飲 お 時 子 とい は 別 覚 する は
 ハ こ ス う 食 ン も だけ け け け 名 えた き す
 ニ ン を こ 品 は ても い は ド ニ コ 名 が こん な
 カ 覚 詰 金 けい けい けい けい けい けい けい けい
 ム へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ

十 十
 二 二
 条 条



な 吐 お え な
 先 酒 を た 先
 輩 飲 ん た 輩
 方 後 方
 と だ 知
 知 り 知
 り り 知
 あり あり あり
 以上

知で郷あ直軽。画ニのい
 感洗さる。線い470期ギ"遺ヨ上
 か練ん。的船の華なかト野
 あさにあな体。麗なう言トの
 るれ現の惑。ス方代花わ470郷
 。た代ごいナハののれでさ
 470説のつとはイルの交470たあんは
 は計スい対プの曲線とるにイ代
 まのホ。堅象的そのの
 さ470。物象的そのの
 に。テな西で

当
 世
 470ヨ
 とッ
 スト
 ナイ
 質
 プ

田
 畑
 博
 幸

たリ根ジの。たルもしてプは負で求のス
 や。性ブのでズヤの。も。日本ての夕うあるさヨリ
 すトのにである。なるやす。つ。の。日、クとる。ルム
 くといは血。る。も。文。し。本。日。ル。ト。で。ナ
 のう。は、の。又、の。明。は。本。人。立。か。の。多。の。は。あ。ウ
 カ利470が、ス、で、の、470根、性、な、世、の、ヨ、の、素、早、い、動、き、要
 を器ではくほどのの
 さいとムクのの
 一丁あがる
 利器トラピ
 性、あまりに
 的、な、風、に、対
 的、な、風、に、対
 的、な、風、に、対

る。姿は、正にヨット舞であ
 だヨッ、トの花、ステコ
 の美し、く、の、花、エ、イ、に、と、艶
 ちで、きな、ハ、の、で、あ、る、数、々
 美の、前、で、は、と、う、て、い、た、ち
 海に、咲、く、花、も、似、た、美、し、さ、も
 ナイ、バ、タ、キ、に、も、似、た、美、し、さ、も
 厳、あ、る、動、き、で、は、あ、の、偉
 以、前、の、問、題、で、あ、る、あ、の、偉
 に、は、風、貌、か、ら、く、違、和、感
 さ、れ、る、こ、れ、で、は、西、郷、さん
 と、ぎ、す、ま、さ、れ、た、動、き、を、要、求
 470 の、ク、ル、は、ス、ピ、ド、と、
 る、こ、と、が、出、来、る、の、で、あ、る。

470

我がクラブにおいて、

覚、は、三、年、か、ら、一、年、ま、で、幅
 広、く、多、い、の、で、あ、る、が、私、共
 々、ス、ナ、イ、プ、陣、は、470 に、負、け、な
 い、よ、う、根、情、と、忍、耐、を、生、え
 っ、け、る、特、訓、を、企、こ、し、筋、金
 入、り、の、海、の、男、に、な、る、う。

470 とスナイプ

来年こそは

関東一、いや日本一

を、目指して

00
00

O.B 名簿

氏名	住 所 (TEL)	
	勤 務 先 (TEL)	
大竹 勝	東京経済大学 (043-2-1941)	部長
柴関 八郎		顧問
羽草 立郎		総監督 41年度卒
船山 広志		監督
柳下 昌司		コ-チ
橋本 登		41年度卒
日笠 成城		41年度卒
鈴木 正章		41年度卒
間利子 恒義		41年度卒
吉田 義夫		41年度卒

高田和男	42年度卒
原田佳臨	43年度卒
古川浩一	43年度卒
本山 雄	44年度卒
栗木 清	44年度卒
高倉義明	44年度卒
豊田 宏	死去
守屋新一	44年度卒
天川美里	45年度卒
天野広道	45年度卒
市川勝興	45年度卒
上原壮六	45年度卒

遠藤 忠夫

45年度卒

鈴木 充

45年度卒

柳下昌司

2-予

松原克典

46年度卒

工藤 純一

47年度卒

小嶋孝行

47年度卒

中野隆昭

47年度卒

五十嵐 誠

48年度卒

川島佳峰

48年度卒

富田秀隆

48年度卒

永山俊郎

48年度卒

長谷川 康二

48年度卒

宮崎 幸雄

48年度卒

吉田 三良

48年度卒

安住 慎一

守屋 由

合資社(〒238-03) 横須賀市長冊荒崎

守屋 新一

44年度卒

先輩ごくりうさん!

4年間 お世話になりました。
展 郎

ヨットとアッコ
忘れないで下さい
深谷敦子

早く結婚して結婚式に
呼んで下さい。
佐塚真吾

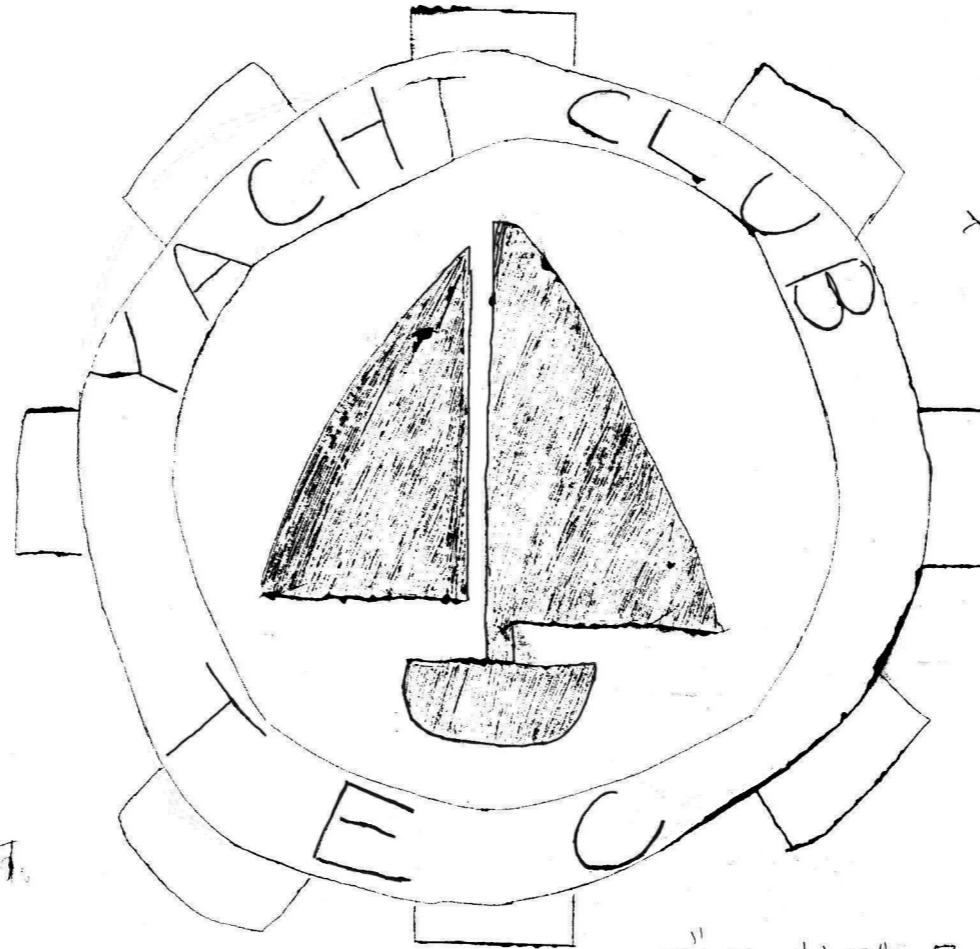
苦勞の種が一つ減ります。
お世話になりました。
田畑博幸

海はみんなのお父さん!
いついつまでもお友達!
マサコです。

いつでもどうぞ。カンクマ用意とマサコ
1年が 堀江

明日は 明日の風が吹く
YOSHIDA

にいお
なま目
りす。出
上総まお
雄しお当
ニた世ご
ニ話さ



THE NO.1 YACHT CLUB IN JAPAN
YACHT CLUB

海はみんなのお父さん!
いついつまでもお友達!
-Goko-

イッショ!!
神崎

これから本場のレースですね。
良いスタートを祈っております
山崎淳一

先輩 ひまかがありましたら
合宿所へもいらして
下さい。

4年間 1年間に御苦勞辱下下
これから社会の荒波へ
良きテラーさばきを!

ゴクローサニテシタ!

今度は社会の中へがんばって下さい!
青木良和

めざします。470級世界選手権
-KEITA-



編集後記

今年とあと半月で終わろうとしております。

コソト部と10周年になります。充実した活動になっている時期に「風見」編集も4作目になりました。充実した物さと思いい編集委員必死でとりくみ無事完成の段となりました。

今回は特にOBの方々の原稿も多く乗せる事ができ、一同よろこんでおります。なお御多忙中のOBの諸先輩部長・現役部員の方々の御寄稿に對し心から御礼申し上げます。目取後に編集にあたり絶大なる協力をしてくださりました一年生に對し、この場で御礼申し上げます。風見を通してOB諸先輩と現役部員がよりいっそう強いキずとなる事を願って編集後記といたします。

昭和四十八年十二月

代表 北村 典聖

委員 青木 良和

佐塚 真吾

東京經濟大學

體育會 工州館